



猯のマラソン

いとうのぼる・著

秋田市土崎港出身、横浜市在住の詩人の第3詩集。土崎空襲の犠牲者追悼平和祈念式典で自ら朗読した「爆弾の池」、作曲

されて式典のテーマ曲となった「哀しみの池」も収める。爆撃による穴に水がたまってできた「池」は、子どものころの遊び場だったという。

秋田工業高校卒

業後、上京。メーカーの営業畑で働く傍ら、サトウハチローの下で詩を学んだ。20代で「猯の昼寝」、40代で「猯の散歩」を出版。悪夢を食べるとされる猯に自身を擬してきた詩人は60代を迎え、平和の祈り、子どものいじめや虐待への思いなど、社会に向けたメッセージを平易な言葉でつづる。夢を追う同年代の仲間たちへの応援歌ともいえるべき詩も、さりげない言葉遣いが共感を呼ぶ。

空襲の詩ばかりでなく、至る所に故郷が顔を出す。〈雪は空からなんて降らない／地面から降ってくるのだ〉（「地面から降る雪」）。故郷の記憶が、今なお希望や夢を支え続けていることがうかがえ印象的だ。

（春風社・1365円）

新刊紹介